

2017年2月18日（土）14：00から
鳥取県立倉吉未来中心 1F セミナールーム1

～が、があ、がな、がん～



方言探究講演会

記念講演 演題

『が、があ、がな、がん -倉吉方言の文末表現の一端-』

こ や の てつお

小矢野哲夫

[http://www001.upp.so-net.ne.jp/ketoba/
tkoyano@gb3.so-net.ne.jp](http://www001.upp.so-net.ne.jp/ketoba/tkoyano@gb3.so-net.ne.jp)

はじめに

- 日本語の文末表現には話し手の認識のしかたや聞き手への伝達態度が現れます。
- が、があ、がな、がんなど、わずか1音、2音を文末に加えるだけで、またはイントネーションを変えるだけで、話し手の認識や伝達態度に変化が生まれます。
- コミュニケーション機能の観点から言語としての倉吉方言に光を当てます。

1.1 方言は言語である（1）

- ▶ いわゆる「方言」は方言語彙（俚言）やなまりを指すことが多い。
- ▶ 方言語彙は方言地域（方言コミュニティ）特有のものである。
- ▶ 倉吉方言の語彙（語・語句）として（goo全国方言辞典から）
- ▶ おせげな、かばち、がいな、きがせれる、きよーさめー、こだらかす、しゃーまーこく、だらず
- ▶ 鳥取県東部または西部の方言と共通するものもある。
- ▶ おせげな、かばち、がいな、きがせれる、きよーさめー、こだらかす、しゃーまーこく、だらず
- ▶ おせげな、かばち、がいな、きがせれる、きよーさめー、こだらかす、しゃーまーこく、だらず

1.2 方言は言語である (2)

4

- ➡ 倉吉方言は**固有の文法**を持っている
- ➡ 格助詞 から (共通語「で」) 接続助詞 けえ (共通語「から」)
- ➡ 共通語の「のだ」文が未発達 行くだ、行っただ、寒いだ、寒かっただ、便利なだ、
- ➡ 動詞の否定形 ん
- ➡ 共通語とは異なる**文末詞**を持っている
- ➡ (なんだい) や (あ)、(なんだい) な (あ)、わい
- ➡ **「ガ」** (が、があ、がな、がん)
- ➡ これらにイントネーションがからんで文の意味を決定している

1.3 倉吉方言を離れて約50年

5

- 1969年4月～1973年3月 神戸市在住（4年間）
- 1973年4月～1978年4月 仙台市在住（5年間）
- 1978年4月～1988年10月 大阪府高槻市在住（10年間）
- 1988年10月～現在 大阪府箕面市在住（28年半）
- 約48年間にわたる各地方言、共通語との言語接触によって母方言としての倉吉方言がどんな影響を受けているのか
- 倉吉方言は自分の意識の中、記憶の中に化石化して残っている
- 約50年前までの、少年、青年（高校生まで）期に使っていた／聞いていた倉吉方言を内省対象とする
- 現在と対比すると、方言としての変化の様相が分かるかもしれない
- 年代差、性差などが分かるかもしれない

1.4 文末詞

- ▶ 藤原与一「方言文末詞（文末助詞）の研究」『広島大学文学部紀要 特輯号2』1972年2月（1982年に春陽堂書店刊）
- ▶ 「**文表現の訴え** 「訴え」は、表現者にとって本然のことと見られる。方言会話の世界を見ると、方言人たちは、たがいに文（センテンス）を表現して会話し、その文を以て、何かをつねに相手に訴えている。はたらきかける訴え、反応する訴え、会話者はみな訴えている。老若男女、これに変わりはない。」 p.2
- ▶ 文の末尾に位置し話者の感情や意志を最終的に統括する成分
- ▶ 「ガ」（が、があ、がな、がん）を**文末詞**と呼んでおく。

2.1 「ガ」が付く形式

7

- ➡ **平叙文**に付く。（主節の文末に付く。）ただし、名詞の場合はダによって述語化したものに付く。

断定と推量

- ➡ 昨日出いたが。 うるさいが。 静かなが。 あした雨だが。 * あした雨が。
- ➡ 昨日出いただらあが。 あしたは雨だらあが。

評価を表す形式にも付く

- ➡ 行かなあいけんが。 行かあでもええが。

蓋然性・証拠性の形式にも付く

- ➡ 行くかもしれんが。 雨が降りさあなが。 だんだん慣れて来たげなが。 でこそさんみたいいなが。



2.2 「ガ」が付かない形式

- ➡ 疑問文 * **いつ**出いたが。 * 昨日出いた**か**が。
- ➡ 命令文 * 出し**ない**が。
- ➡ 依頼文 * 出しと**いて**が。 * 出しと**いて**—**な**が。
- ➡ 禁止文 * まんだ出す**な**が。 * まんだ出しなん**な**が。
- ➡ 以上は「があ」「がな」「がん」も付かない。
- ➡ 「がん」は推量、丁寧には付かない。
- ➡ * あしたは雨だらあがん。 * ええですがん。

3.1 イントネーション

- ええが↑ 高低高 上昇調イントネーション (↑、↗)
- ええがあ↗ 高低低高
- ええがな↓ 高低低低 下降調イントネーション (↓)
- ええがん↓ 高低低低



- 感嘆の気持ちを表す。
- 共通語 (いいじゃない↓/いいんじゃない↑)
- 近畿方言 (いいやん↓/いいんちゃう↑)



3.2 イントネーションと文の意味

- ➡ 勝手にすらあええが ↑
- ➡ 勝手にすらあええがあ ↑
- ➡ 勝手にすらあええがな ↓
- ➡ 勝手にすらあええがん ↓
- ➡ (勝手にしたらいいじゃない/いいやん)
- ➡ 放任の態度を表す。

4.1 だが↑ (低高)

11

- 1 拍名詞頭高 絵、木、酢、手、二、齒、火、目、湯、輪
- ➡ 2 拍名詞頭高 鯉、夜、朝、山羊、空、おせ
- ➡ 2 拍名詞尾高 池、昼、山、草、嘘、背戸、伊木
- ➡ 3 拍名詞頭高 雀、烏、大瀬、田後、小矢野
- ➡ 3 拍名詞尾高 山根、福庭、中江、三朝、長瀬 (地名)
- ➡ 3 拍名詞中高 大原、上井、
- ➡ 2 拍動詞頭高 ある、書く、来る、飲む、会う、食う、脱ぐ、
漕ぐ、這う、縫う、付く、むく、刺す、立つ、
待つ、勝つ
- ➡ 3 拍動詞中高 走る、焦る、会える、書ける、砕く、かぶる、
読める、飲める、作る、泳ぐ

4.2 だあが↑ (高低高)

12

- ➡ 1拍名詞平板 柄、胃、蚊あ、毛え、血い、戸、葉、実い
- ➡ 2拍名詞平板 ぶと、牛、豚
- ➡ 3拍名詞平板 畑、羊、松田、山根（人名）、小谷、八屋、
だらず
- ➡ 2拍動詞平板 聞く、咲く、言う、買う、吸う、めぐ、
嗅ぐ、する、舞う、行く、浮く、ごす
- ➡ 3拍動詞平板 登る、下る、探す、飛ばす、違う、言える、
開ける

5.1 「だ」の有無 動詞文の場合

13

「だ」なし

- ➡ そこにあるが↑
- ➡ そこにあったが↑
- ➡ そこにあるがあ [↑]
- ➡ そこにあったがあ [↑]
- ➡ そこにあるがな↓
- ➡ そこにあったがな↓
- ➡ そこにあるがん↓
- ➡ そこにあったがん↓

「だ」あり

- ➡ そこにあるだが↑
- ➡ そこにあっただが↑
- ➡ そこにあるだがあ [↑]
- ➡ そこにあっただがあ [↑]
- ➡ そこにあるだがな↓
- ➡ そこにあっただがな↓
- ➡ そこにあるだがん↓
- ➡ そこにあっただがん↓

5.2 「だ」の有無 形容詞文の場合

14

「だ」なし

- ➡ 寒いが↑
- ➡ 寒かったあが↑
- ➡ 寒いがあ [↑]
- ➡ 寒かったあがあ [↑]
- ➡ 寒いかな↓
- ➡ 寒かったがな↓
- ➡ 寒いがん↓
- ➡ 寒かったがん↓

「だ」あり

- ➡ 寒いだが↑
- ➡ 寒かっただが↑
- ➡ 寒いだがあ [↑]
- ➡ 寒かっただがあ [↑]
- ➡ 寒いだがな↓
- ➡ 寒かっただがな↓
- ➡ 寒いだがん↓
- ➡ 寒かっただがん↓

5.3 「だ」の有無 形容動詞文の場合

15

「だ」なし

- ➡ 静かなが↑
- ➡ 静かなかったあが↑
- ➡ 静かながあ [↑]
- ➡ 静かなかったあがあ [↑]
- ➡ 静かながな↓
- ➡ 静かなかったがな↓
- ➡ 静かながん↓
- ➡ 静かなかったがん↓

「だ」あり

- ➡ 静かなだが↑
- ➡ 静かなかっただが↑
- ➡ 静かなだがあ [↑]
- ➡ 静かなかっただがあ [↑]
- ➡ 静かなだがな↓
- ➡ 静かなかっただがな↓
- ➡ 静かなだがん↓
- ➡ 静かなかっただがん↓

6.1 「がん」が付く形式

16

- ➡ (郵便なら) 昨日出いたがん。(過去の事実の確認を強調して表出)
- ➡ すごいがん!! (程度の大きい様子を強調して表出)
- ➡ ごっついうるさいがん。(同上)
- ➡ ごっつい静かながん。(同上)
- ➡ なんだいや、あしたあ雨だがん。(確定的な事態を強調して)
- ➡ 行かなーいけんがん。(行為の義務的な実行を強調して表出)



6.2 「がん」が付かない形式

- ▶ *痛い**です**がん。（丁寧表現には付かない）
- ▶ *あした雨**だら**あがん。（推量表現には付かない）
- ▶ *行きな**った**さ**あ**な**あ**がん。（証拠性表現には付かない）
- ▶ *だ**ん**だ**ん**慣**れ**て来**た**げ**な**がん。（証拠性表現には付かない）

7.1 意味の違い 「が」と「があ」

18

が

- ➡ これ、ええが。↑
- ➡ これ、ごっついええが。↑
- ➡ 何でもええが。↑
- ➡ どがでもええが。↑
- ➡ こっちのほうがええが。↑
- ➡ 勝手にすらあええが。↑

があ

- ➡ これ、ええがあ。[↑]
- ➡ これ、ごっついええがあ。[↑]
- ➡ 何でもええがあ。[↑]
- ➡ どがでもええがあ。[↑]
- ➡ こっちのほうがあ。[↑]
- ➡ 勝手にすらあええがあ。[↑]
- ➡ 「が」に比べて強調の度合いが強い。

7.2 意味の違い 「がな」と「がん」

がな

- ➡ これ、ええがな。↓
- ➡ これ、ごっついええがな。↓
- ➡ 何でもええがな。↓
- ➡ どがでもええがな。↓
- ➡ こっちのほうがええがな。↓
- ➡ 勝手にすらあええがな。↓
- ➡ 押し付けるようなニュアンスが感じられる。主に男性が使用か？

がん

- ➡ これ、ええがん。↓
- ➡ これ、ごっついええがん。↓
- ➡ 何でもええがん。↓
- ➡ どがでもええがん。↓
- ➡ こっちのほうがええがん。↓
- ➡ 勝手にすらあええがん。↓
- ➡ 「がな」に比べて強調の度合いは低いのか？

8.1 浅尾いずみ (2001) 「鳥取市方言における文末詞ガー」 『阪大社会言語学研究ノート』 3 (一部)

- ➡ 知識確認の要求
- ➡ 知識・情報が既知 潜在的共有知識の活性化
- ➡ 昨日学校の帰りに雨が降ったガー
- ➡ 来ていたガー、忘れたの？
- ➡ だから言ったガー、あの人には気をつけろって
- ➡ 知識・情報が未知 認識の同一化要求
- ➡ (a) 確認 あそこにポストが見えるガー
- ➡ (b) 伝達 うちの犬ってかわいいだガー

8.2 認識的な意味、伝達態度

21

「が」「があ」

- ➡ 聞き手に事態を認識させる・知識の確認を要求する
- ➡ 昨日雨が降ったが。↑ 昨日雨が降ったがあ。☐↑
- ➡ 聞き手に事態を説明する（「だ」が共通語の「のだ」に相当する）
- ➡ 昨日雨が降っただが。↑ （軽く）
- ➡ 昨日雨が降っただがあ。☐↑ （強めに）

「がな」「がん」

- ➡ 聞き手に事態を強く認識させる・知識の確認を強く要求する
- ➡ 昨日雨が降ったがな。 （忘れていることを思い出させる）
- ➡ 昨日雨が降ったがん。 （忘れていることを思い出させる）

10. 分析の方法（試案の一部）

22

会話、対話の第1発話になる

- 多く、「だ」のない「が」が該当する。
- 描写したことを聞き手に伝達する。
- 伝達内容に対する同意要求、認識要求
- わあ、夕焼けがきれいなが。（*夕焼けがきれいな**だ**が。）
- 夜中にものすごい風が吹いたが。（*夜中にものすごい風が吹いた**だ**が。）

第1発話ではないが、相手が言ったことに対して再認識を迫る。

- （○○君、来とったかいなあ？）来とったあが。（*来とった**だ**が。）
- 相手が言ったことに対して不平の気持ちで答える。
- （風呂、入んないよ。）今入るが。（*今入る**だ**が。）

第1発話にならない

23

- ▶ すべての「だ」のある「が」
- ▶ 先行発話に対する説明として伝達する。
(自動車は間に合ったかいな。) それで、もう来とっただが。
(*それが、もう来とっただが。)
- ▶ (ウサギ飼っとななるだってなあ。) ほんに可愛いだが。
(*ほんに可愛いが。)
- ▶ 「だ」のない「が」で「~と思った」を述語とする文
- ▶ 先行発話の代わりに現前状況を受けることもある。
ああおべた。誰かと思ったが。
(台所で物が割れる音を聞いて)
なにい? 茶碗が割れたか。何事かと思ったが。
(こないだの会合に相手が来てなかったことを話題にして)
あんたも来とんなると思ったが。

参考文献

- 浅尾いずみ (2001) 「鳥取市方言における文末詞ガー」 『阪大社会言語学研究ノート』 3, pp.1-11.
- 朝日祥之 (2001) 「名古屋市方言における文末詞『ガ』」 『阪大社会言語学研究ノート』 3, pp.12-19
- 大塚杏未 (2016) 「鳥取県倉吉方言の聞き手目当ての文末表現『二』について」 『阪大社会言語学研究ノート』 14, pp.76-93.
- 谷守正寛 (2011) 「鳥取東部方言アクセントの規則」 『地域学論集 (鳥取大学地域学部紀要)』 第8巻第2号, pp.65-75.
- 日本語記述文法研究会 (2003) 『現代日本語文法 4 第8部 モダリティ』 くらしお出版
- 藤原与一 「方言文末詞 (文末助詞) の研究」 『広島大学文学部紀要 特輯号 2』 1972年2月 (1982年に春陽堂書店刊)
- 松丸真大 (2005) 「島根県松江市方言のガ系文末詞」 『阪大社会言語学研究ノート』 7, pp.62-72.
- 室山敏明 (1998) 『日本のことばシリーズ31 鳥取県のことば』 明治書院